

東 漢

加
治
田

華
嶽
下

特 別
入 5
6673
17
早稲田大学図書印

寶曆八戊寅



歳旦

杉西庵

巴山

門書之

是うり本くも

聖せしき

各詠

大晴也此是も春の外ありて

守松

こころの夢の事之如く初

歳令

その是ハ風もそけよ送るも

可調甘

おとと思ふやまもよ一着を約

花露

あつと云ふつづけるは春も

竹布

福事やそれより又元も

其柳

門書也神よさうも悟るは

有徳有

初也や氣のまゝぬ明あら

仙市

春もやいはれはカキテ初も

夢々

人目

七種也先の何くハ摘とぬ

巴山

雪も春とて松花もより

見ふ

那つゝいも氣は身も此せより

片夕

りよ言ふれとれくも

片夕

昔よすの酒も幸ひふの月

守秘

片もさくく凡すちて路

仙市

それともふ秋の交并此をく

可調

上流のけふもけぬ 柳立

其柳

洲原よけ産皮すとかうりく

有徳

是て廣心と縁あけてさ

竹市

花曇りといふとも旅の夜

幾今

めくくハにぬー玉の暖

柳市

竹市室のありー（その冬を来と

たりんとあつてーよりき

五并店主

片川とも詠免いね

竹の書

丁巳

年書

あつてふのさふ衣をより

片夕

来うりて候うさふ年の坂

片夕

市の海邊んくふの年の海

幾今

餅揚げ店ハ餅のりふいす

片夕

春もさふ片凡一きふ年籠

竹市

年籠也市ハ籠きふ年の文

其柳

紗束ハふふおほんくふ年日

仙市

種の高れとくぬ里も春近

可調

見春又目鏡あつけく春んか

守秘

久ーやともお打もあつて年の市

巴山

三
けりしよりけりしと年
あしこれあきいねあき
けりしとけりしとけりし
とけりしとけりしとけりし
とけりしとけりしとけりし
とけりしとけりしとけりし

竹河室

見承

己う客よ

初高ハキマツ

系竹賣